

## 下呂温泉合掌村

下呂温泉合掌村にある歴史的な茅葺き屋根の民家群では江戸時代（1603年-1867年）の田舎の生活を知ることができます。この野外博物館は2つの区域に分かれています。合掌の里には地域の遺産を中心に建築物と美術品を展示しており、歳時記の森は遊歩道、神社、茶屋のある樹木に覆われた丘です。

### 過去への入り口

合掌という言葉は「祈りながら手を合わせること」を意味し、現在の岐阜県と富山県にある伝統的な農家などの豪雪に耐えるように設計された急勾配の茅葺き屋根のことを指します。村内の合掌の里にはこのような建物が10棟あり、江戸時代の田舎の文化や生活様式を垣間見ることができます。

合唱の里の目玉は岐阜県白川郷から移築された広々とした19世紀の邸宅、旧大戸屋住宅です。この邸宅は保存のために慎重に解体・移築され、合掌の里で再建されました。農家の台所、作業場、倉庫には農具や木工道具、養蚕台などが展示されています。部屋の多くにはその時代の衣装を着て仕事や余暇のポーズをとったマネキンも展示されています。

### 職人技と文化

合掌の里のいくつかの施設では地元職人作の工芸品を展示しています。円空館では木造仏像で有名な僧侶、詩人、彫刻家である円空（1632年-1695年）の作品を展示しています。彼は生涯で12万体の彫像を完成させたと言われています。彼の作品は円空が暮らした現在の岐阜県を連想させる質素で荒削りな佇まいが特徴です。この館には円空の作品約30点が所蔵されています。

飛騨工房では陶芸、紙すき、その他の工芸品のコースが開催され、竹原文楽記念館では文楽として知られる日本の人形浄瑠璃と人形遣いの巨匠洞奥一郎（1918年-2004年）の芸術が展示されています。

### 休息とレクリエーション

合掌の里には屋外足湯「合掌の足湯」やカエルの置物や道具が展示されている休憩所「かえるの館」があります。日本語ではカエルの鳴き声を擬音語で「ゲロ」と表すので下呂の町と関連付けられるようになりました。合掌の里には食事処があり、アマゴやイワシ、アユの炭火焼きなどの地元の名物料理を味わうことができます。

合掌の里の敷地の向かいには「歳時記の森」があり、丘の中腹に桜やカエデの木々が生い茂り、春と秋が特に美しいです。歳時記の森には茶屋や神社、全長175メートルのローラースライダーがあります。下呂温泉合掌村へは下呂駅から徒歩で約20分、車で約5分です。